

## 環境-エネルギーフォーラム 2017 in 福島

主 題：地球温暖化防止に向けた 廃棄物・バイオマス発電の価値認識と高効率化の促進

- ふくしまは今 -

### 趣 旨

地球温暖化防止に向けた環境-エネルギー関連の総合政策の模索と同時に、新エネ・省エネに関する技術研究開発や種々の取組みが各階層において現在精力的に展開されています。この中で廃棄物発電に関しては、21世紀初頭に下された政策判断により厳密には新エネルギーとは一線を画した中途半端な状態に置かれてきましたが、2011年3月11日の東日本大震災に端を発した我が国の原発主導型エネルギー政策の破綻問題を解決するうえで重要な「環境調和型地域（独立）分散電源」としての機能を有する安定電源として再認識されるようになりました。さらに、2012年7月に施行された再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)において廃棄物・各種木質バイオマス・メタン発酵などによるバイオマス系発電価格が確定し、それぞれ有用な地産地消型エネルギー資源との価値判断が下されて今日に至っています。

このような背景を踏まえて、本主題による第1回フォーラムを2010年9月に東京秋葉原で開催して多面的な議論を加えた結果、技術論、政策・施策論、および国民の意識など様々な観点から多様な課題の存在が浮き彫りにされました。また、東日本大震災の2週間後に北九州地方で第2回フォーラム(2011年3月)を、さらに第3回以降は北海道など日本各地において地域特有の課題や「売り」を副題に設定し、震災復興を絡めた今日の環境-エネルギー問題が内包する主要課題に関する講演やパネルディスカッションなどを通して、廃棄物・バイオマス発電の価値認識の共有化を図ってまいりました。

1. 2010 in 東京：2010年9月29日，東京秋葉原
  - 技術，政策・施策，国民の意識等に関する課題抽出
2. 2011 in 九州：2011年3月24-25日，大牟田市，北九州市
  - システム技術論と政策・施策論との連携
  - 東日本大震災からの復興に向けた新たなエネルギー戦略と、「環境調和型地域分散(独立)電源」としての価値認識
3. 2011 in 北海道：2011年7月14-16日，北広島市，札幌市，鹿追町，帯広市【市民参加型(1)】
  - バイオマス・バイオガスからのエネルギー回収技術の高度化
  - 工農連携によるプラント技術の耐久性・信頼性向上を図り，北海道から被災地に対して何か支援出来ること
4. 2012 in 長岡：2012年7月10-11日，新潟市，長岡市【市民参加型(2)】
  - 固液両相の廃棄物からの資源エネルギー回収技術の高度化と地方行政の底力
5. 2013 in 八王子：2013年3月16日，八王子【市民参加型(3)】
  - 環境-エネルギー問題の安全・安心と市民
6. 2013 in 宮城：2013年11月14-15日，山元町，蔵王町，仙台市【市民参加型(4)】
  - 復興のさらなる促進と地方行政・市民レベルでの資源エネルギー創造へのシナリオ
7. 2015 in 船橋：2015年1月17日，船橋市【市民参加型(5)】
  - 再生可能エネルギー，防災拠点化，省エネ，行政ガバナンス

今回の第8回福島フォーラムでは、原発トラブルの影響で復興再生が遅延気味の福島の現状を把握し、復興に向けての諸課題を明らかにするとともに、私達が各分野で今できることを共通理解することを目的として議論する場を提供します。

主 協 後	催 賛 援	(公社)腐食防食学会 法人等：(一社)日本環境衛生センター，(公社)全国都市清掃会議，(一社)地域環境資源センター，(一社)廃棄物処理施設技術管理協会，NPO法人 再生可能エネルギー推進協会，NPO法人 都市環境フォーラム学協会：(一社)廃棄物資源循環学会，(一社)日本有機資源協会，(一社)日本機械学会，(一社)日本エネルギー学会，(一社)資源・素材学会，(公社)日本材料学会，(公社)日本金属学会，(一社)日本鉄鋼協会，(一社)スマートプロセス学会，(一社)表面技術協会，(一社)溶接学会，(公社)日本プラントメンテナンス協会，(公社)日本下水道協会 福島県，(一社)福島県再生可能エネルギー推進センター，日刊工業新聞社，公共投資ジャーナル社
-------------	-------------	---

(協賛団体募集・依頼中)  
(後援団体募集・依頼中)

### 日時・場所・イベント

1. 開催日時：2017年7月4日(火) 午後 - 5日(水)
2. 開催場所：
  - 7月4日(火) 午後 コラッセふくしま (公益財団法人 福島県産業振興センター，福島市三河南町 1-20)  
[公開制：東北地方(新潟県，茨城県を含む)に在住・在勤の方は予約不要，無料]
  - 7月5日(水) 終日 バスツアー ((集合) 福島駅-浜通り-飯舘村-蔵平地区仮設焼却施設-福島駅 (解散))  
[学協会会員限定・予約申込制，有料]

[イベント次第]

[1][ 7月4日(火)]

1. 会 場 : 「コラッセふくしま」4F 多目的ホール (JR 東北本線・新幹線福島駅西口徒歩 5 分)
2. 時 刻 : 開場 13 時 00 分, 開始 13 時 30 分, 終了予定 16 時 45 分
3. 参加費 : 2,000 円 (資料代, 会場費など)  
(なお, 東北地方 (新潟県・茨城県を含む) 在住・在勤の方は無料とします)

4. 次 第 :

(1) 開会挨拶 「環境・エネルギーフォーラム 2017 in 福島」企画運営委員会 委員長 吉葉 正行

(2) 基調講演

バイオガスの草の根的普及を目指す -手造りメタン発酵装置とその利用事例-

NPO 法人 再生可能エネルギー推進協会 前代表理事, 日本工業大学 名誉教授 佐藤 茂夫氏

(3) 講 演

『成長社会』から『成熟社会』へ

福島県相馬郡飯館村 村長 菅野 典雄氏

[休 憩]

(4) パネルディスカッション・・・[主 題] 「ふくしまの現在と明日」

○コーディネータ : 吉葉 正行 (公共投資ジャーナル社 論説主幹)

○パネリスト : 菅野 典雄氏 (飯館村村長)

佐藤 幸世氏 ((一社)日本環境衛生センター 東日本支局 環境工学部長)

尾園 次郎氏 (NPO 法人 再生可能エネルギー推進協会 代表理事)

阿部 清一氏 (国立環境研究所 客員研究員)

井土 俊輔氏 ((株)神鋼環境ソリューション 次長, 前・飯館村小宮地区仮設焼却施設管理責任者)

(5) 総括・閉会挨拶

[2][技術交流会]・・・学協会会員を中心に予約申込制・・・

1. 日 時 : 7月4日(火) 17時00分~19時00分
2. 会 場 : コラッセふくしま 12F 「きいちご」
3. 料 金 : 5,000 円 (飲食付, 領収書を発行します)

[3][ 7月5日(水)]・・・バスツアー (学協会会員限定・予約申込制)・・・

1. 集 合 : 8時45分 JR 福島駅西口バスプール (案内が立ちます)
2. 行 程 : 福島駅 (9時00分発)・・・浜通り (F1 を遠望できる地域)・・・飯館村 (昼食, 忍びす庵)・・・  
蕨平地区仮設焼却施設 (概要説明と見学, 13時30分~15時)・・・福島駅 (17時頃解散)
3. 料 金 : 3,000 円 (貸切バス利用料, 領収書を発行します) (昼食代金は別途各自でお支払いください)

[参加区分と料金] (東北地方 (新潟県, 茨城県を含む) 在住, 在勤の方は申告くだされば, A の費用分を減額)

A : 全日程・全イベント ([1], [2], [3]) に参加	10,000 円
B : 7月4日のイベント[1], [2] に参加 (7月5日のイベント[3] は不参加)	7,000 円
C : イベント[1], [3] に参加 (イベント[2] は不参加)	5,000 円
D : イベント[2], [3] に参加 (イベント[1] は不参加)	8,000 円
E : イベント[1] のみ参加 (イベント[2], [3] は不参加)	2,000 円
F : イベント[3] のみ参加 (イベント[1], [2] は不参加)	3,000 円
G : イベント[2] のみ参加 (イベント[1], [3] は不参加)	5,000 円

[予約申込締切] 2017年6月19日(月) [厳守]

[内容・参加申込等に関する照会先]

「環境・エネルギーフォーラム 2017 in 福島」企画運営委員長  
公共投資ジャーナル社 論説主幹 吉葉 正行  
E-mail: yoshiba@tmu.ac.jp, TEL: 090-5323-0164 (mobile)

[企画運営委員会]

- 委員長 : 吉葉 正行 (公共投資ジャーナル社 論説主幹)  
幹 事 : 佐藤 幸世 ((一財)日本環境衛生センター 東日本支局 環境工学部長)  
鈴木 康夫 (JFE エンジニアリング(株) 主席)  
委 員 : 安樂 敏朗 (日鉄住金テクノロジー(株) 統括主幹)  
井土 俊輔 ((株)神鋼環境ソリューション 環境プラント事業本部 次長)  
山根 和範 (公共投資ジャーナル社 編集長)  
基 昭夫 (東京二十三区清掃一部事務組合 研究員)